Step of the Daido Steel & Chita Plant

創成 期

1916～1951

-FOUNDATION-

1914年
大同特殊鋼の歴史は、我が国の電気製鋼と共に始まった。

大同特殊鋼の歴史

西暦	
1916	● 後1953年に大同製鋼㈱に改称
1918	● 新大同製鋼㈱誕生
1919	● 星崎工場建設
1921	● 日本初のマンガン製特殊軌条の製作に成功
1922	㈱電気製鋼所 木曽電気製鉄㈱が合併し 大同電気製鋼所が誕生
1925	普通鋳鋼製軌道轍叉を名古屋柳橋交叉点に初めて敷設
	● 鉄道用分岐器（クロッシング）の初敷設
	基礎電気製鐵㈱を設立
	● 電気炉での初製銑に成功
	日本最古の電気炉「1・5tエルー式」アーク炉完成
	● 日本初のアーク炉開発成功
	㈱電気製鋼所を設立 名古屋電燈㈱から製鋼部門を分離
	● 創業

創業間もなく建造された本社屋前工場。レンガの建物がモダンだった。

現在は、解造を大同キャスティングスに移し、新幹線用生首の民各社、私鉄各社に納入しているクロッシングレール。

大同特殊鋼創業者 福沢桃介、その軌跡

福沢桃介 互戒十則
1914（大正3）年、名古屋電燈の社長に就任した桃介が唱げた経営の精神。その内容は、現在でも相通じるものが多く、大同特殊鋼の大切な経営精神として受け継がれている。

❶ 国家事業への目覚め
若くして経験に富まれた桃介は、産業中の主役資本家に眼ざめた若づりて、桃介が一生涯、貫徹した信念である。それが大生の出、大正時代を迎えるに当たり、「国の産業を興すこと」を決意した。しかし、「国の産業を興すこと」を決意した桃介は、「自分の力は、とても、とうていこの大事業は、一人の力では、成し遂げられない。国家的な事業を中心を、一人の力では、成し遂げられない。国家事業の道へ進路を決めたことになる。

❷ 電力という選択
若い青年時代、桃介は、電力事業に、生涯に、貫徹する、夢を、抱くようになった。そして、無機質が相手の電気事業を通じ、なぜ、電、なるか、こうなるか、を、考察した。電力電気相手に、の、ものを、ものを、ものを